



# 図書館だより

# 11月

NO.7

2008/11/4

ノートルダム学院小学校図書館

## こがら うらにし から -木枯し、浦西、空っ風-



こよみ 暦のうえで立冬（7日）のころに吹く強い季節風を「木枯し」と言います。木の葉を落とし枯木にしてしまうところから、このように言うのですね。天気予報で「木枯し1号」ということばを耳にするのは、11月上旬で、最大風速が8メートル以上吹く風のことです。

この時期の風向きが西または北西の風を山陰地方では、「浦西」と言うのだそうです。ちなみに、関東地方では、冷たい強風のことを「空っ風」と言います。風にもいろいろな呼び名があるのですね。寒いのはいやですが、冷たい空気は心も体も、きゅっと引きしめてくれます。

秋のおたより

金子みすゞ

山から町へのお便りは、  
「柿の実、栗の実、熟れ候、  
ひよどり、鶺鴒、啼き候、  
お山はまつりになり候。」

町から山へのおたよりは、  
「つばめ  
「燕がみんな、去に候、  
柳の葉っぱが散り候、  
さむく、さみしく、なり候。」

## 時間を忘れて、読書に熱中！ 読書週間（～11月9日）

冷たい北風が吹くころ、暖かい日ざしを受けて、本を読むのは気持ちが良く、とても安らかな気分になります。読書週間は戦後間もない昭和22年、「読書の力によって平和な文化国家をつくろう」と、第一回「読書週間」が開さいされたのが始まりです。集中しやすいこの時期に、たくさんの本を読んで、お気に入りの一冊と出会えるといいですね。5年生のろうかには、「おすすめの本」が掲示されています。図書委員会が紹介するのは、



「目立たないけれど読んでほしい本」です。その一部をここに紹介しましょう。



**R21 岩崎さんより** 『天使の靴』ドナ・ヴァンリア 作 ポプラ社  
クリスマスの日にいろいろ大変な出来事が起こりますがその困難をのりこえていく話。



**R22 油谷さんより** 『鈴の音は魔法のはじまり』河俣規世佳 作 ポプラ社  
新しい町に引っこしてきた あやかは、ある日かわいい、ししゅうのある店を見つけました。そのお店のおばあさんが鈴をならずと不思議なことが始まります。



**R23 池光さんより** 『若草物語』ルイザ・M・オルコット 作 ポプラ社  
あまり読む機会がなかったのですが、読んでみるとおもしろかったです。今の大人の方は「若草物語」を知らない人はいないと思います。



**R22 大澤君 より** 『佐賀のがばいばあちゃん』島田洋七 作 徳間書店  
昭広がお母さんと別れておばあちゃんの家で暮らしていく物語。おばあちゃんにごはんの作り方やお金がなくても生活していける方法などいろいろ教えてもらう。すごく楽しい本だ。



**R22 内海君 より** 『見えざるピラミッド』ラルフ・イーザウ 作 あすなろ書房  
とても分厚い本で、一目見ただけでは、読みたくなる本ですが、読み始めてみると、とってもおもしろい物語。ぜひ読んでみてください。



**R23 倉内君 より** 『前田の美学』迫勝則 作 宝島社  
メジャーリーガーのイチローも憧れた広島カープの前田選手がプロに入ってから2000本安打を達成するまでのことを書いています。ぜひ読んでみてください。